

中海におけるコアマモ (*Zostera japonica*) の移植技術の検討 (予報)

宮本 康・九鬼貴弘・初田亜希子*1・國井秀伸*2

*1：鳥取県西部総合事務所

*2：島根大学汽水域研究センター

LAGUNA (汽水域研究) Vol.15,83-89(2008)

Key Words: *Zostera japonica*, disturbance, seed production, transplant experiment, sprig

中海のコアマモは20世紀に著しく減少し、近年では再生が強く望まれている。本種の保全と再生を進める上で応用が可能な情報を得るため、本研究は人工水路を用いた実験により(1)本種の種子生産を阻害する要因を解明し、(2)移植技術を確立することを目的とした。アマモ類は種子生産を行うまでにある程度のサイズまで成長する必要があるが、コアマモが主に生育する浅い水域は様々な人為攪乱により成長を阻害される例が多い。そこで、主な人為攪乱である底質攪拌がコアマモの花枝形成率に与える影響を評価した。その結果、底質攪拌を与えた水路

では攪拌を与えなかった水路に較べて花枝形成率が低下した。この結果より、人為攪乱が「今日の中海でコアマモの種が採れない」問題を生じさせている一因であることが示唆された。続いて、種子の入手が困難である現状を踏まえ、地下茎を用いたコアマモの移植実験を人工水路で行い、約1年半の期間で面積にして約60倍の増殖に成功した。しかし、少数の地下茎を成長させることで増殖させたコアマモには、遺伝的多様性の劣化という弊害を伴う。最後にこうした遺伝的劣化について考察した。